

日向夏ミカンちゃん 延岡市で1日に始まったアユやなって何？  
 記者 産卵のため川を下るアユの習性を利用して、川の中に組んだ丸太と竹を組み合わせ、誘い込んだアユを捕る大規模な仕掛けのことです。写真(2005年撮影)。今年の丸太は、すべて市内の山で取れた杉。長さは2〜5・5メートルあり、500本も使われているんですよ。これだけ大きいやなが市街地で見られるのは全国でも珍しいといわれています。

ミ いつから始まったの？  
 記 延岡市に残る文書に、1692(元禄5)年に架けたやなが壊れたとあるので、少なくとも300年以上続いているんですね。

ミ そんなに捕り続けたら、アユがいなくなりそう。  
 記 アユを捕りすぎないようにやなを架けるのは1年間で50日間だけ。川幅約100メートルのうち、やなの幅は約80メートルにして、アユが通れる魚道を残すことも決められて

### 日向夏ミカンちゃんの質問箱

#### 延岡市で始まったアユやなって何？



います。アユを増やすため地元の漁協の人が育てたり、買ったたりしたアユの放流もしてるとですよ。

ミ すごい仕組みだね。「存続



の危機」って聞いたけど。  
 記 やなは近くにアユを食べる食堂を造って、そこで稼いだお金で運営します。客数は一番多かった約10年前の約3万人から1万人に、やなも3カ所から1カ所に減りました。そこで、市や延岡観光協会などが「伝統鮎やな憲章」を作り、天然か養殖かを教えることを決め、魚が苦手な人のためにチキン南蛮などの料理も出すなど工夫を始めました。

ミ じゃあ、アユやなはこれからもずっと続いていくんだね。  
 記 やなを造るには少なくとも300万円以上がかかるので、来客数が伸びないと、やな造りが難しくなります。伝統文化を守ることで、費用を確保することを両立しなければ続きません。みんなと一緒に守ろうとする努力が必要です。(延岡支社・堀口佳菜子)

習性利用しアユを捕る仕掛けです